

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく、学びプラン)」の進捗状況概要版
(令和4年度に進捗のあった主な事業)

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和4年度進捗状況	令和5年度以降の取組	資料3 記載項目
京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設 【(1)-①(P1)】	京都ミュージアムPBL科目	京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集まる多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4科目を開講し、全科目合計で65名が受講した。授業は対面による活動を主体に感染予防対策を講じた上で実施された。	・「京都ミュージアムPBL科目」は1科目(大学)減の3大学・3科目が開講される予定である。 ・「京都世界遺産PBL科目」は1科目(大学)増の6大学・7科目が開講される予定である。 ・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。	
	京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	「京都世界遺産PBL科目」は5大学・6科目を開講した。全科目合計で108名が受講した。授業は対面による活動を主体に感染予防対策を講じた上で実施された。		
単位互換制度におけるグローバル科目の開設 【(1)-②(P1)】	グローバル科目開設に向けた検討	大学の国際化に即したグローバル科目開設に向けた検討を実施。	学生が広くグローバル科目を受講する機会を創出するため、英語を教授言語とする科目の提供促進を企図して、同科目に補助金を支給する仕組みを構築した(2023年度から開始)。	各大学に対して英語を教授言語とする科目の提供を広く依頼するとともに、学生に対しては特色ある科目の一つとして積極的に周知を行う。	
新たなe-ラーニングの仕組みの研究 【(1)-③(P1)】	新たなeラーニングの仕組みづくりの検討	新たなeラーニング等、ICTの活用について検討を実施。	2022年度「プラザ・オンライン科目」の提供促進に向けて補助金支給額の増額などガイドラインを改定した。また、大学設置基準上の遠隔授業の位置づけについて明示する仕組みを作り、シラバスへの反映を各大学に依頼した。	各大学で実施されるオンライン授業は総体として減少しているが、補助金支給額の増額などを広く周知し、オンライン科目の提供促進に向けて引き続き大学に働きかける。	
大学と連携した学生の安心・安全の確保 【(2)-③(P3)】	学生支援に取り組む大学応援事業	コロナ禍における原油価格・物価高騰の影響を受け、大学・学生を取り巻く状況が厳しくなる中、学生支援に取り組む大学を応援・後押しするため、各大学が実施・充実する取組に対して補助を行う。	各大学が京都市内のキャンパス等で実施・充実させる、学生に対する経済的支援や学用品の支給・貸与など、学修環境の確保に係る取組等に対して補助を実施。 ①大学等が独自に実施する奨学金・授業料減免制度の実施・充実 ②学生が使用する教材等の購入費補助 ③学生が使用する学用品等の支給・貸与 ④学生寮等に入居する学生の家賃補助 ⑤新型コロナウイルス感染症対策に係る学生への物品の配布等 交付件数 27件／32件	長引くコロナ禍や物価高騰等の影響により、大学・学生を取り巻く状況が依然として厳しい状況を受け、令和5年度はふるさと納税寄付金を活用し、各大学が実施する経済的に困窮する学生への支援に関する取組を後押しする。	

柱2 大学・学生の国際化の促進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和4年度進捗状況	令和5年度以降の取組	資料3 記載項目
戦略的な留学生誘致の展開 【(1)-①(P7)】	全国から京都へ！ 留学生の戦略的 誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	・従来、首都圏向けとしていた京都進学説明会については福岡など他地域も対象としたうえで、オンライン開催(留学生計224名)した。 ・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送った。 ・首都圏及び他地域の日本語学校教職員向けの取組として、京都の各大学参加者が参加するオンライン説明会及びオンライン交流会を開催(首都圏:12校、京都側:12校、教職員計60名))した。 ・誘致活動のためのオンラインコンテンツ強化のため「京都留学フォトコンテスト」を開催(応募作品数:186)した。	・進学説明会については、引き続き首都圏を中心としつつ、他地域も含めて幅広く展開を進めていく。 ・実地体験やツアー形式での取組については、費用対効果を考慮し、基本的にはオンラインでの開催を基本としつつ、新型コロナウイルス感染拡大等の状況を踏まえ、必要に応じて対面式での取組を進める。 ・日本語学校及び大学の教職員同士の交流機会の創出について、引き続き取組を進める。 ・留学生の動画および写真のコンテストについては一定の成果があったため令和5年度においては実施せず、今後の周期事業とする。	★
留学生の受入に係る大学の負担軽減への支援 【(2)-①(P10)】	京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行う「ウェルカム・パッケージ」、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する「留学生優待プログラム」を実施。加えて、R4年度からは新たに京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に触れる「参加体験型プログラム」を本格実施。	新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、春入学・秋入学の時期に合わせ、留学生を対象にしたウェルカム・パッケージ(各種行政手続き等の説明会)を対面方式で実施。	引き続き、春入学・秋入学の時期に合わせて電子データも活用しながら、留学生を対象にしたウェルカム・パッケージ(各種行政手続き等の説明会)を対面方式で実施予定。	
留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化 【(2)-②(P10)】	ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワークにおける受入支援	京都市の姉妹都市であるキーウ市をはじめウクライナから避難された方々を、温かく受け入れ、支援を行う。	ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワークにおいて、住居支援をはじめとする、避難者のニーズに応じた様々な生活支援を実施した。 ○避難者の受入状況(令和5年3月10日時点) 世帯数 72世帯、人数 78名 (うち大学・日本語学校) 大学45名、日本語学校6名	引き続き、企業や団体等をはじめ多くの皆様から、住居や物資・サービスの提供、受入れのための寄付金、通訳翻訳ボランティアを募り、避難された方への支援に確実につなげる取組を進めていく。	
日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実 【(4)-①(P15)】	「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につなげる取組を行う大学を支援。	留学拡大に向けたインドの大学との協定締結や国内日本語学校への誘致活動など、国際化に係る取組を進めるR2年度に認定した7大学(池坊短期大学、大谷大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都ノートルダム女子大学、佛教大学)を支援。	引き続き、海外協定校の拡大に向けた調整や日本語学校等と連携した誘致活動など、国際化に資する取組を行う認定7大学を支援する予定。	

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和4年度進捗状況	令和5年度以降の取組	資料3 記載項目
学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援【(1)-①(P18)】	京都学生祭典	京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。	令和4年10月9日に平安神宮前・岡崎プロムナードにて対面で実施。一部企画についてはライブ配信を行った。 【実績値(本祭当日)】 来場者数:21,082人 YouTube視聴回数:2,149回 公式HPアクセス数:5,862回	コロナ禍の影響で、新歓活動が制限され新規実行委員数が減少していることから、実行委員数の確保と合わせて来場者数の回復に向けてサポートする。 本祭は第21回を迎え、対面での開催を第一に準備を進める。引き続き、密にコミュニケーションをとりながら活動を支援する。	
学生Place+ (ふらす)の更なる活用促進【(1)-②(P19)】	学生Place+ (輝く学生応援プロジェクト)	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対して、活動場所の提供や専門コーディネーターによる助言・指導等を通じた支援を実施	・キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施している。 (学生Place+来場者数(12月末現在):17,748名) ・コロナ禍で活動が制限される中、京都のまちで主体的に活動している学生団体を後押しする機会として「輝く学生応援アワード」を実施した。13団体が応募し、9団体が受賞した。	引き続き、市民活動団体、地域団体等との連携を強め、輝く学生プロジェクトを通じ、京都のまちの活性化につながる活動や社会貢献活動を行う学生を、総合的にサポートし、学生の主体的な活動を促進していく。	
ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設【(1)-④(P19)】	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、「京都学生祭典」をはじめとした学生の挑戦を応援する寄付メニュー及び大学・学生と地域の連携強化等を図るための寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	・令和4年度ふるさと納税寄付メニュー「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進～市内大学と協働！学生さんの挑戦を応援！～ ・取組に賛同いただいた24大学・短期大学や京都学生祭典と連携し、寄付の促進に向けたPR等を行った。 (令和4年12月末時点寄付実績:3,431件138,574千円) ・また、令和3年度から取組を開始した大谷大学、京都女子大学、京都橘大学には、令和3年度に収入した寄付金を活用し、各大学が実施する地域連携事業やリカレント教育事業に補助を行った。	引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得するとともに、各大学において実施する地域の連携強化等に関する事業の後押しを行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上につなげていく。 【大学・学生と地域の連携強化等に関する協定大学】 R4:24大学・短期大学→R5:28大学・短期大学	★
学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充【(4)-①(P25)】	学生向けアプリ KYO-DENT(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	・累計ダウンロード数:32,390 (昨年同時期比+12,489) ※R5年2月末時点 ・ダウンロード数の増加に向けて、SNS等を活用した広報を実施。 ・ニュース配信にて、加盟校、京都市、大学コンソーシアム京都による京都ならではのイベントを積極的に配信した。	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。 また、引き続きアプリを活用して京都ならではの学生生活に資する情報等を学生へ発信していく。	

柱4 学生の進路・社会進出の支援

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和4年度進捗状況	令和5年度以降の取組	資料3 記載項目
地域企業と連携した 担い手育成 【(1)-①(P27)】	地域企業と連携した 次代の京都の担 い手育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留 学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り 組むPBLプログラムを実施。	留学生を含む公募学生チームが、京都の 地域企業と連携し、課題等の解決に向け、 学生目線を生かしながら取り組んだ。 また、就活前の学生が京都の地域企業と 接点を持つ交流会も初開催した(2回実 施)。 (プロジェクト数:6、参加者:9大学・37名(う ち留学生3名)(12月末時点)	引き続き、留学生を含む公募学生チームと 京都の地域企業が連携した取組のほか、 就活前の学生が企業の現場(工場)を訪問 する体験プログラムを新たに実施予定。	★
地域企業の魅力発 信の強化 【(1)-②(P27)】	京都中小企業担 い手確保・定着支 援事業	京都企業・就業情報データベースを作成し、 ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情 報発信を行うことで、学生をはじめとする求職 者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。	・ウェブサイト「京のまち企業訪問」の掲載 企業(掲載企業数:4,065社) ※令和5年1 月末時点 ・新たに新卒採用やインターンシップ情報 を掲載するなど、学生にとって分かりやす いサイトに改修するため、「京のまち企業訪 問」リニューアル学生プロジェクトチームを 立ち上げ、サイトの改修を学生と企画。 令和5年3月1日からサイトをリニューアル。	引き続き、ウィズコロナにおける地域企業 の採用活動のオンライン化への対応を一 層支援するとともに、学生や企業等への周 知に取り組み、学生をはじめとする求職者 等へ京都の中小企業の魅力を発信する。	
地域企業の魅力発 信の強化 【(1)-②(P28)】	インターンシップ・ プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大 学における学びの一環として位置づけ、実体 験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」 「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある 人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。 。	「ビジネスコース・パブリックコース」では、 事前・事後学習をオンラインで実施。受講 生はコーディネーターとなる教員のもと、実 習先の業種ごとにクラスに分かれて指導を 受けて実習に参加し、192名が修了した。 また、「長期プロジェクトコース」では、対面 で実施することを基本としながら、受入先につ いてはオンラインでも参加できる体制を 整え実施。最終講義では活動成果報告会 を行い、22名が修了した。	各コースともに教育プログラムとしてのイン ターンシップを推進する。 「ビジネス・パブリックコース」では、引き続 きオンラインを活用して、事前・事後学習の ほか面接・レポート提出等を行う。また、 「長期プロジェクトコース」では令和4年度の 実施状況を踏まえブラッシュアップされた 授業内容やワークシートを基にプログラム を展開する。	
地域企業と学生の出 会いの場づくり 【(1)-③(P29)】	The Future of KYOTO AWARD	学生の市内定着、市内企業就職に向け、企業 と学生を繋ぐ取組として、「The Future of KYOTO AWARD」を創設し、民間企業と連携 して学生主体の地域課題解決の取組を実施 する。 本取組は、学生自らが地域課題を発掘し、解 決策の検討・提案、実践までを行う。賛同企業 には、提案採択の際の審査・表彰、また、実践 の際には、助言等の御協力をいただき、学生 の成長と一緒に応援いただく。	SDGsや持続可能なまちづくり、京都ならで はの伝統文化の継承などの公共的課題を 意識し、最終的に京都市の政策や地域の 産業、業界の取組の参考となるような政策 案や社会事業案を学生から募集。18の提 案応募があり、書類、プレゼン審査を経て 5つの提案を表彰。 表彰事業については、賛同する企業の支 援のもと、実証の取組を推進。	令和4年度の取組をベースに、学生と賛同 企業の交流を充実させるなど、事業を通じ た学生のさらなる育成に取り組む予定。	

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和4年度進捗状況	令和5年度以降の取組	資料3 記載項目
リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実 【(1)-①(P31)】	リカレント教育の推進支援, 実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで、リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	・今年度は2講座を開講し、合計で80名が受講した。また、リカレント教育企画検討委員会において2023年度の講座として3講座、さらに今年度中に新たに特別企画を開催した。講座及び特別企画はいずれも社会人が受講しやすいオンラインでの実施とした。 ・加盟校及び財団における生涯学習、リカレント教育に係る情報を広く社会に発信するポータルサイトの開設に向けて準備を進めている。	・2022年度から開始した2講座は2年目となり、2024年度まで開設することを計画している。2023年度から開始する1講座の安定的な実施とともに、2024年度に向けて、財団が実施するにふさわしい新規講座についても検討を進める。 ・加盟校に対してポータルサイトへの情報登録のメリットを周知し促すとともに、同サイトが社会で広く活用されるよう広報を積極的に行う。	★
大学と地域の連携強化 【(4)-①(P35)】	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を、大学等の組織的な取組として定着させ、更に充実・発展させることを目的に、京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	・令和2年度からの採択校を引き続き支援した。 - スタートアップ型:2件(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部、花園大学)、発展型:2件(京都橘大学、龍谷大学) ・採択校の取組について、外部有識者による中間評価を実施した。(令和4年9月29日)	引き続き、大学における学生と地域をつなぐ取組や新たな地域連携科目の開設などを支援することで、学生の学びと成長の機会を創出する全学的な地域連携の取組を促進する。	
大学と地域の連携強化 【(4)-①(P36)】	大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。	13事業を採択し、支援するとともに、地域連携WEBサイト等で取組事例の発信を行った。 採択件数13件／応募件数18件	コロナの影響を受け、令和2年度は事業を休止したが、令和3年度、4年度と徐々に応募件数はコロナ禍前に戻りつつある。今後は、更に学生の対面での活動が活発になることを踏まえ、政策研究交流大会をはじめとする各種事業への参加学生やゼミに対して積極的な広報を行うなど、応募件数や参加学生の更なる増加に努める。	
学生の力をいかした住民自治の活性化 【(4)-③(P37)】	大学生の力を生かした田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し、自治会活動に参加することで、地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては、大学、当該市営住宅自治会及び本市が連携協定を締結し、事業を推進。	・7名が入居し、自治会役員として自治会活動に参加(3名が卒業に伴い退所) ・自治会行事については、コロナに留意しながら開催 ・関係者協議については、対面協議を実施 ・市営住宅に入居し、自治会活動に参加する魅力や地域の情報を発信するオンラインイベントを開催。	・引き続き7名が自治会活動に参加(新たに3名の新規入居者あり) ・関係者協議については、情勢を見極めながら、対面を中心に行う。 ・オンラインイベントの開催	

柱6 国内外への魅力発信の強化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和4年度進捗状況	令和5年度以降の取組	資料3 記載項目
修学旅行生とその保護者等を対象としたPR 【(1)-①(P39)】	街全体がキャンパス 学びの都 京都 B&Sプログラム	全国から修学旅行で京都を訪れる中高生に現役大学生が観光地や大学キャンパスと一緒に街歩きし、京都の街・大学の魅力を伝達。	・アプリの活用や学生団体への呼びかけをとおして、学生ボランティアの確保に努めた。 ・受入実績 17校(2,197名) ※オンライン実施を含む。 ※R5年2月末時点	引き続き、学生ボランティアの確保に取り組み、京都の大学への関心を高め、京都の大学へ進学する学生の獲得につなげる。	
学生による京都で学ぶ魅力の発信 【(1)-②(P39)】	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS (Twitter、Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・高校生が京都学生広報部の部員とともに大学訪問や取材、記事執筆を体験することができる新たな企画「コトカレ 高校生プロジェクト」を実施。 ・コトカレの年間実績(R4.12月末時点) アクセス数:369,152アクセス ページビュー数:492,406PV 掲載記事本数:78本	引き続き、学生目線による大学生生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	
留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信 【(2)-①(P40)】	留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。	・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域、9名) ・感染予防のため、在宅によるSNS発信等の業務を実施 ・オンライン留学フェアに参加し、先輩留学生として京都留学に関する体験談を説明するなど、フェア参加者のニーズに寄り添ったものとなるよう工夫した。	・現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信 ・誘致や交流関係事業において体験談・バディ・翻訳等の取組を実施	
留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信 【(2)-①(P40)】	「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	・大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生のうち、希望者を「京都PR学生大使」に任命。 ・任命者数 8名	引き続き、京都PR学生大使を通じ、SNSなどを活用し、国内外に向けて京都の魅力を発信予定。	